

民間企業等との 連携事例集

大阪市福祉局高齢者施策部
地域包括ケア推進課

※健康寿命をのばそう！アワード受賞事例
より抜粋

<https://www.smartlife.mhlw.go.jp/award/>

目 次

第11回 健康寿命をのばそう！アワード 介護予防・高齢者生活支援分野

- 1 0084 地域健康プロジェクト
大橋運輸株式会社 1
- 2 スマホ教室× 通いの場（オフライン/ オンライン）による健康促進と
デジタルデバイドの解消
楽天モバイル株式会社 楽天シニア 2
- 3 高齢者社会におけるクルマ会社の存在価値と地域への関わり方
兵庫ダイハツ販売株式会社 3
- 4 みやぎ「フレイル予防」地元テレビ局によるプロモーション事業
株式会社宮城テレビ放送 4
- 5 医・食・住のコンシェル樹（ジュ）～地域に根差したまちづくり～
中北薬品株式会社 5
- 6 医療法人と老人クラブが連携した住民主体の通いの場づくり
医療法人社団敬和会 6

第9回 健康寿命をのばそう！アワード 介護予防・高齢者生活支援分野

- 1 「食」でつながり体も心もまちも元気に！通いの場× 移動販売
とれたて食楽部、Honey! ハニー!! 7
- 2 企業と行政がタイアップして取り組む健康づくり・介護予防
イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー
北陸事業部イオン高岡店 8
- 3 ふらっとカフェ（認知症カフェ）
JAいび川デイサービスセンター清流の里 9
- 4 できることから始めよう！介護予防！！
株式会社 小島薬局本店 10
- 5 男性シニアボランティアグループがこども食堂等へ野菜を提供。
さらに他分野でも特技を発揮中！
鶴見区シニアボランティア アグリ 11

第8回 健康寿命をのばそう！アワード 介護予防・高齢者生活支援分野

- 1 地域における「脳いきいき事業」発症予防・進行予防・孤立化予防への取り組み
株式会社Re学（りがく） 12
- 2 おでかけリハビリ（おでりハ）
函館朝市協同組合連合会 13
- 3 誰もが笑顔になれる場所 ちばる食堂
ちばる食堂 14

第7回 健康寿命をのばそう！アワード 介護予防・高齢者生活支援分野

- 1 ミライシニアプロジェクト
合同会社P-BEANS 15
- 2 養父市地域支え合い買い物支援活動
移動販売活性化協議会 16
- 3 配食サービスを軸とした総合的な生活支援の充実
株式会社 南阿蘇ケアサービス 17

第6回 健康寿命をのばそう！アワード 介護予防・高齢者生活支援分野

- 1 高齢者向け複合施設「そいよかね」を中心とした
介護予防・高齢者支援の取組及び行政連携事業
株式会社ミス（佐賀県佐賀市） 18
- 2 JA あまるめ地域支援事業
余目町農業協同組合（山形県東田川郡庄内町） 19

第3回 健康寿命をのばそう！アワード 介護予防・高齢者生活支援分野

- 1 （有）静内ケアセンター福祉村構想
有限会社静内ケアセンター
- 2 「まちかどよろず相談会」の開催
株式会社ホクノー 20



取組名

0084地域健康プロジェクト

受賞者

大橋運輸株式会社

所在地：愛知県瀬戸市西松山町2-260

電話：0561-82-0084

E-mail：m_tai@0084.co.jp

URL：https://www.0084.co.jp/activity/p1439/

活動地域概要

活動範囲	市区町村内の概ね全域		
総人口	128,343人		
65歳以上人口	38,433人	29.95%	総人口に占める割合
75歳以上人口	21,227人	16.54%	総人口に占める割合

一般世帯数	57,744世帯		
高齢者単身世帯数	10,152世帯	17.58%	一般世帯数に占める割合
高齢夫婦世帯数	7,728世帯	13.38%	一般世帯数に占める割合

背景・課題意識

- ・瀬戸市の高齢化率は3割に迫り、愛知県内における人口10万人以上の市町村の中で高齢化率が最も高いことから、高齢化に伴う地域課題や2025年問題の解決に向けて地元企業としてできることに取り組む必要がある。

経緯

- ・10年以上前から健康経営に取り組む中で蓄積されたノウハウを地域課題の解決に役立てたいという思いから、「0084地域健康プロジェクト」を立ち上げた。

取組内容

●運動教室

社員向けにバランスボール教室、健康太極拳教室、ヨガ教室を開催していたが、令和3年4月からは市民向けに開催している。より多くの市民に参加してもらうため、瀬戸市社会福祉協議会と連携し、令和4年6月からは瀬戸市社会福祉協議会が運営する施設で開催している。(月1回、1回あたり30～50人)

●おはなし広場

令和2年11月から社内の管理栄養士が市民に対して無料で栄養相談を実施している。食事をはじめ、運動や睡眠に関するアドバイスも行っている。

また、ニーズに応じて、スマホ教室や片付け講座などを開催することで、市民が気軽に立ち寄れるコミュニティの場になることを目指している。

●官民連携による各種セミナー



瀬戸市長



瀬戸旭医師会



尾張旭市市民講座

栄養の日のイベント

令和4年8月4日

連携先：瀬戸市役所、社会福祉協議会、医師会、警察署、ボランティア団体
 ・公益社団法人日本栄養士会が毎年各地で開催するイベント。「栄養を楽しむ」生活を応援するために、医師や管理栄養士が中心となってセミナーを開催している。

令和4年7月

・警察署生活安全課による特殊詐欺啓発
 ・市役所、市民団体、弊社の3拠点が連携して健康・防災・SDGsに関するセミナーを開催している。



瀬戸市長ご挨拶



バランスボール教室



健康太極拳教室



ヨガ教室



おはなし広場

利用者の変化

- ・「仲間との交流が増えたことで、毎日が充実している」「運動だけでなく、食事に関する情報や特殊詐欺情報などの生活に役立つ情報が得られる」といった肯定的な意見が寄せられている。



取組名 **スマホ教室 × 通いの場(オフライン / オンライン)による健康促進とデジタルデバイドの解消**

受賞者 **楽天モバイル株式会社 楽天シニア**

所在地: 東京都世田谷区玉川一丁目14番地1号
 楽天クリムゾンハウス
 電話: 050-5581-1293
 E-mail: rakuten-senior-publiccon@mail.rakuten.com
 URL: https://senior.rakuten.co.jp/

活動地域概要	
活動範囲	市区町村内の概ね全域
総人口	70,798人
65歳以上人口	28,420人 40.14% 総人口に占める割合
75歳以上人口	14,965人 21.14% 総人口に占める割合

一般世帯数	35,355世帯		
高齢者単身世帯数	6,003世帯	16.98%	一般世帯数に占める割合
高齢夫婦世帯数	4,945世帯	13.99%	一般世帯数に占める割合

背景・課題意識

- ・コロナ禍で既存の活動の場が制限されていた。
- ・オンラインを活用すれば、コロナ禍でも活動を継続することができるが、参加者のITリテラシーが低いため、まずはスキルを習得する必要があった。

経緯

- ・令和2年度: 宇和島市が「うわじまガイヤ健康体操」を軸に通いの場を推進していることを知った。
- ・令和3年度: 厚労省及び長寿研が行っている、通いの場の促進に関する実証実験において、宇和島市と新しい介護予防事業を始めることとなった。



宇和島主催の全地域合同うわじまガイヤ健康体操イベント
 ■自宅からオンライン(Zoom)参加ができた高齢者

取組内容

●実施概要

通いの場での活動量や教室の内容に差をつけ、グループ毎の効果を検証

- グループA: オフラインとオンラインの通いの場でのうわじまガイヤ健康体操、スマホ教室、身体機能測定、フレイルチェック2回
- グループB: オフラインの通いの場でのうわじまガイヤ健康体操、スマホ教室、身体機能測定、フレイルチェック2回
- グループC: スマホ教室、身体機能測定、フレイルチェック2回
- グループD: スマホ教室

●取組詳細

- ・スマホの基礎知識・活用方法、健康増進、社会参加、日常生活を便利にするサービス等に関する教材を用意し、スマホ教室で使用。
- ・オンラインで通いの場に参加することを目指し、Zoomの学習期間を長めに設定している。
- ・オンラインで集まることの楽しさを知ってもらうため、グループAを対象にしたオンラインイベントを開催。(オンラインお茶会、太極拳、笑いヨガ等)
- ・グループAの参加者のモチベーションをあげるため、活動量に応じてポイントを付与するインセンティブを用意。
- ・自走化できるように、グループ内からリーダーを選出。

グループ	参加人数	性別参加人数	平均年齢	通いの場の参加頻度	スマホ教室	参加活動量に応じたインセンティブ	オンライン通いの場アプリインストール (65歳以上)
Aグループ	13名	男性: 0名 女性: 13名	71歳	週1-7	定期開催 オンライン化	あり	13名
Bグループ	14名	男性: 1名 女性: 13名	76.5歳	週1	定期開催	無	14名
Cグループ	11名	男性: 6名 女性: 5名	72.2歳	-	定期開催	無	11名
Dグループ	62名	-	-	-	1回以上/1人	無	62名

活動内容	インセンティブ
スマホ利用 ・LINE利用 ・インスタ利用	10P
通いの場アプリ ・脳トレゲーム ・食事管理 ・お散歩機能 ・基本チェックリスト	10P
楽天シニアアプリ ・スマホ教室参加 ・健康体操参加 ・イベント参加	10P~
測定 ・InBody ・健康測定	100P~

獲得したポイントを地域の薬局で利用し、ライングループ内で盛り上がっている様子。

楽天ポイントで地元の薬局で利用。初めてのキャッシュレス体験。

インセンティブが、他のグループメンバーへの刺激に。

利用者の変化

- ・ITリテラシーが身につく、オンラインで通いの場を開催することができたため、コロナ禍で外出ができなかった期間も、心身機能の低下は見られなかった。
- ・グループの参加状況と連動してポイントが付与されるため、通いの場の活性化につながった。
- ・スマホ教室において、日常生活に役立つスマホの基礎知識や活用方法を習得できたことで、QOLが向上した。



取組名

高齢者社会におけるクルマ会社の存在価値と地域への関わり方

受賞者

兵庫ダイハツ販売株式会社

所在地：兵庫県神戸市灘区大石東町2丁目1番10号
電話：078-882-5126
E-mail：kouichi_inoue@hyogo.daihatsu-dlr.co.jp
URL：-

活動地域概要

活動範囲	市区町村内の概ね全域		
総人口	41,895人		
65歳以上人口	15,285人	36.48%	総人口に占める割合
75歳以上人口	8,307人	19.83%	総人口に占める割合

一般世帯数	20,289世帯		
高齢者単身世帯数	2,197世帯	10.83%	一般世帯数に占める割合
高齢夫婦世帯数	3,617世帯	17.83%	一般世帯数に占める割合

背景・課題意識

- ・自治体では、地域で高齢者を支える仕組みである「地域包括ケアシステム」の構築が課題となっている。
- ・地域包括ケアシステムにおいて、地域のクルマ会社としての使命を果たす必要がある。

経緯

高齢者の悲惨な交通事故が必要以上に報道され、「高齢者の免許は返納すべき」との世論が大きくなり、高齢者にとって重要な生活の足である自動車が使えなくなることで、日常生活に支障を来す危険性があった。

取組内容

【産・官・学・民】健康安全運転講座

運転能力の低下や認知機能の衰えに気づいていない高齢ドライバーにとっての気づきの場になるよう、産学官民が連携して「健康安全運転講座」を実施している。

(※【産】はダイハツグループとJAF、【官】は洲本市役所と洲本警察、【学】は理学療法士協会、【民】は地域住民やそのコミュニティを指す。)

①【産】衝突被害軽減ブレーキ体験会

最新の安全技術の紹介や説明、衝突被害軽減ブレーキの乗車体験を実施。

②【産】自動車の死角や運転姿勢に関する講座

自動車の死角について説明し、シートベルトが確実に作動して安全に運転できる運転姿勢を指導。

③【官】栄養士による食事指導

管理栄養士による高齢者向けの食事指導。

④【官】交通安全の講話

実際に市内で発生した交通事故の実例を用いて、交通安全の講話を実施。

⑤【学】フレイル予防講座

フレイルとその予防について講座を実施するとともに、認知機能や運動機能の衰えを確認するためのテストを実施。

⑥【民】地域住民の参加

様々な地域コミュニティと連携し、高齢者の参加を促進。

【産・官・学・民】健康安全運転講座



ダイハツ
衝突被害軽減ブレーキ体感



日本自動車連盟様 (JAF)
自動車の死角確認、運転姿勢の講座



洲本市役所様
栄養士による食事の指導



洲本警察様
安全運転の講話



兵庫県理学療法士会様
フレイル予防の説明と認知機能の確認



洲本市の地域住民の皆様
すもと高齢社会をよくする会様など

利用者の変化

- ・参加した高齢者の方からは、「免許返納の参考になった」「次回以降も定期的に参加して、自身の身体の状態を確認したい」などの感想が寄せられている。



取組名

みやぎ「フレイル予防」地元テレビ局によるプロモーション事業

受賞者

株式会社宮城テレビ放送

所在地：宮城県仙台市宮城野区日の出町1-5-33

電話：022-236-3426

E-mail：frailty@mmt-tv.co.jp

URL：-

活動地域概要

活動範囲	複数の市町村にまたがる広域		
総人口	2259662人		
65歳以上人口	651,351人	28.83%	総人口に占める割合
75歳以上人口	322,418人	14.27%	総人口に占める割合

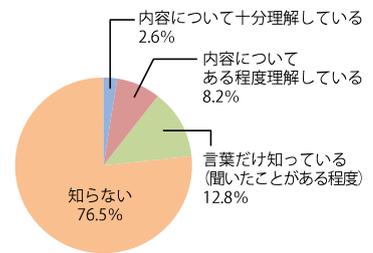
一般世帯数	1,025,673世帯		
高齢者単身世帯数	145,121世帯	14.15%	一般世帯数に占める割合
高齢夫婦世帯数	109,945世帯	10.72%	一般世帯数に占める割合

背景・課題意識

- ・高齢化率が上昇の一途をたどる中、フレイルについて知らない人が多く、今後さらなる普及啓発活動が必要。
- ・宮城県内では積極的にフレイル対策を行なっている市町村もあるが、その取組には地域間で差がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、自粛生活が長引いた結果、高齢者がフレイル状態に陥りやすくなっている。
- ・メディアとして地域に貢献したいという思いから、フレイルとその予防について、県民に広く知ってもらうための取組を開始した。

課題

「フレイル」の認知・理解



経緯

- ・独自にフレイルの特集を放送していた折に、宮城県から業務委託を受けた。
- ・官民連携でフレイルについて正しい理解を広め、自ら予防に取り組むことができるよう、新型コロナウイルス感染症の流行も踏まえながら、テレビを中心とした普及啓発に取り組んでいる。

取組内容

●テレビによる情報発信

- ・夕方のワイド番組での特集(令和2、3年)
- ・ミニ番組の制作・放送・DVD化(令和2、3年)
- ・コマーシャルの制作・放送(令和2、3年)
- ・特別番組の制作・放送(令和3年)

●新聞による情報発信

- ・新聞による情報発信(令和2年)
- ・啓発リーフレットの制作(令和2、3年)

地元テレビ局のノウハウを活用して宮城県の元気な高齢者や専門家を取材・放送



フレイルとその予防について、地域住民や自治体、専門家を取材し、分かりやすく放送した。

取材内容をDVD化・リーフレット作成



取材内容のDVDを作成し、新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場で放映した。また、リーフレットを作成して、会場で配布した。

新聞広告・啓発リーフレット作成



2月1日(フレイルの日)に合わせ、地元の新聞でフレイルに関する情報を掲載。情報誌にも広告を掲載することで、新聞購読者以外への訴求を図った。

利用者の変化

- ・知らず知らずのうちに、フレイル予防ができていく宮城県の高齢者を地元テレビ局が取材して、テレビ番組を放送したことで、取組が盛んな地域の高齢者の自信やモチベーションが高まるとともに、新たな話題作りにつながった。
- ・取組が活発でない地域の高齢者もテレビ番組や新聞広告を通じてフレイルについて知ることができ、フレイル予防のための行動を起こすきっかけになった。
- ・フレイルについて詳しく知らない人や、高齢者の家族を含む幅広い世代の理解が深まったことで、地域全体でのフレイル予防の促進につながった。



取組名

医・食・住のコンシェルジュ(ジュ)

～地域に根差したまちづくり～

受賞者

中北薬品株式会社

所在地：愛知県名古屋市中区丸の内三丁目11番9号

電話：053-463-1311

E-mail：naoyuki-tabata@mail.nakakita.co.jp

URL：-

活動地域概要

活動範囲	複数の市町村にまたがる広域		
総人口	3,580,442人		
65歳以上人口	1,101,978人	30.78%	総人口に占める割合
75歳以上人口	574,348人	16.04%	総人口に占める割合

一般世帯数	1,505,157世帯		
高齢者単身世帯数	472,201世帯	31.37%	一般世帯数に占める割合
高齢夫婦世帯数	182,564世帯	12.13%	一般世帯数に占める割合

背景・課題意識

- ・樹木のように地域に根を張り、中北薬品が持つ様々なツールを活用して枝葉を茂らせることで、ネットワーク形成ならびに地域包括ケアシステムの構築を目指している。
- ・「社員全員がその案内人(コンシェルジュ)になろう!」という思いで活動している。

経緯

- ・静岡県の賀茂地域で日頃からつながりがある三師会と行政の間を取り持ち、県内初の包括連携協定を締結し、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を実施した。
- ・現在は静岡県内の18市町村と包括連携協定及び健康に関する協定を締結し、健康寿命の延伸を目的とした地域貢献活動に取り組んでいる。

取組内容

●下田市、南伊豆町、西伊豆町、東伊豆町、松崎町、河津町

役場・集会所・公民館において、健康相談会、管理栄養士による食事指導、薬剤師会との共催による薬の相談会を実施。また、災害時にどのような手段で医薬品を輸送するかという課題の解決に向けてドローンの飛行実験を行い、実用化の可能性を検討。

●浜松市

地域包括支援センターと協議する中で、認知症患者の家族や介護者の治療薬に関する知識の向上や、認知症患者の病態に対する理解促進に課題があるという声が上がった。そこで、地域包括支援センターや地域の薬局と共同で、認知症の早期発見や治療薬の服用方法、治療薬の効果と副作用に関する講演会を実施。

●磐田市

磐田地域包括支援センターに、高齢者から「食欲が減った」などの食に関する相談が多く寄せられていた。また、コロナ禍で外出頻度が低下した高齢者も多く、要介護状態にならないよう、磐田市地域包括支援センターと磐田市南部地域包括支援センターで管理栄養士による食事指導を実施。

●袋井市

袋井市では乳がん検診の受診率が低いことが課題であったが、集団検診会場で乳がん啓発運動指導士による「リンパトーンストレッチ」を実施したり、待合室において乳がんのセルフチェック動画を流したりすることで自身による乳がんの早期発見を促した。また、骨折による寝たきりに伴う医療費・介護費の増大も課題であったことから、袋井市中部地域包括支援センターや袋井市健康づくり課と共同で、骨折予防や骨の健康づくりに関する普及・啓発を目的とした講演会を実施。

●静岡市

静岡市認知症ケア推進センター「かけこまち七間町」が令和2年にオープンし、健康寿命延伸に資するイベントを開催している。その一つとして、静岡市地域包括ケア推進本部と共同でフレイル予防のための食事に関する講演会を実施。

●富士市

地域包括支援センターでは、市民ボランティアの中から地域ごとの食生活改善推進員のリーダーを養成したいと考えていた。そこで、しずおか健康長寿財団と連携し、食生活改善推進員のリーダーを養成するための研修会を実施した。また、市内の幼稚園児や小学生を対象に朝食の大切さを学ぶ体験型の食育教室を開催し、子どもたちが食材釣りゲームを通じて楽しみながら食に関する知識を身につけることができるよう支援した。

●清水町

食を通じて元気なまちづくりを推進するため、清水町健幸づくり課と共同で、食育推進ボランティア養成セミナーを実施した。当該セミナーでは講座だけでなく、調理実習を実施したことで、食事の大切さをより実感できる機会となった。

●公益財団法人しずおか健康長寿財団

高齢者向けに静岡県内の市町や地域包括支援センターと連携し、フレイル予防に関する講座やイベントを開催。

利用者の変化

健康相談会や講演会、食事指導などを通じて、地域住民が食事や運動などの生活習慣を見直すきっかけになるとともに、地域住民の健康意識の向上につながっている。



下田市と他市とのweb交流会



富士市での体験型食育講座



富士市での体験型食育講座



公益財団法人しずおか健康長寿財団での「はつらつ生きがい講座」



取組名

医療法人と老人クラブが連携した住民主体の通いの場づくり

受賞者

医療法人社団敬和会

所在地：岩手県北上市北鬼柳 22-46

電話：0197-61-5070

E-mail：fujiko@keiwakai.info

URL：-

活動地域概要

活動範囲	小学校区単位		
総人口	23,631人		
65歳以上人口	7,562人	32.00%	総人口に占める割合
75歳以上人口	3,889人	16.46%	総人口に占める割合

一般世帯数	9,497世帯		
高齢者単身世帯数	1,261世帯	32.42%	一般世帯数に占める割合
高齢夫婦世帯数	900世帯	9.48%	一般世帯数に占める割合

背景・課題意識

- ・福祉に関わる法人として、地域の高齢者にいつまでも元気でいてもらうためにできることを検討していた。
- ・社会参加の機会を通じて、人の役に立つことで、高齢者の元気と健康を維持することができると考えた。
- ・法人独自でボランティアポイント制度を作り、シニアのボランティアを募集した。
- ・自法人内の介護施設でボランティア活動の場を提供し、活動を支援した。
- ・健康寿命を伸ばすためには、体操や運動の場も必要ではないかと考えていた。

経緯

日頃から協力関係にある地元の老人クラブ会長から「老人クラブの会員が(介護保険サービスの)デイサービス等を利用するようになると、老人クラブの集まりに参加しなくなる」「長い付き合いのメンバーで集まれる場所がほしい」「出かける場所がなく、自宅に引きこもりがちの高齢者がいるので、外出するきっかけがほしい」といった相談を受けた。

取組内容

- ・地元の老人クラブと協力して、住民主体の支え合い事業(総合事業通所型サービスB)を実施。
 <老人クラブの役割> 参会者への声かけ、通所型サービスBの担い手(ボランティア)の確保
 <自法人の役割> 登録手続きや請求業務等の事務的な仕事、会場の提供、ユニフォームの提供
- ・活動の主体はあくまで住民であり、いきいき百歳体操以外の活動内容は住民で決めている。クイズを考えたり、絵手紙に挑戦したりと様々な活動を行っている。
- ・隔月で担い手の定例会を開催し、情報交換や感染予防策の共有などを継続して実施。
- ・介護施設運営のノウハウを活かし、介護認定を受けている高齢者でも安心して活動に参加できるよう、担い手にサポート方法を助言。



担い手(ボランティア)の活動



クリニックの空きスペースでの活動



ショッピングセンターでの活動

利用者の変化

- ・担い手が通いの場での役割を担うことにより、生きがいにつながっている。
- ・介護認定を受けても、通いの場に参加することができ、住民同士の交流や社会参加を続けられている。
- ・引きこもりがちであった高齢者も安心して参加できる通いの場があることで、外出するきっかけになっている。

第9回



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優秀賞

取組名

「食」でつながり体も心もまちも元気に！ 通いの場 × 移動販売

受賞者

とれたて食楽部、Honey! ハニー !!

所在地：静岡県袋井市山名町 3-8

電話：0538-41-1100

E-mail：info@toretate-cub.com

URL：①https://toretate-c.com

②https://www.facebook.com/fukuroihoneyhoney/

活動地域概要 令和2年度高齢者福祉行政の基礎調査
令和2年4月1日時点

活動範囲	静岡県 袋井市			一般世帯数	35,139 世帯		
総人口	88,221 人			高齢者単身世帯数	3,246 世帯	9.2%	一般世帯数に占める割合
75 歳以上人口	20,795 人	23.6%	総人口に占める割合	高齢夫婦世帯数	3,040 世帯	8.7%	一般世帯数に占める割合
65 歳以上人口	9,907 人	11.1%	総人口に占める割合				

体や心の健康増進、売上・認知度の向上、地元企業の社会貢献で みんなが Win-Win の関係に！

取組・事業の背景、経緯

本市の高齢者世帯数は年々増加しており、総世帯数に対する割合も増加傾向にある。また、高齢者を対象とした意識調査では、食料品や日用品の買い物で不便や不安を感じるという意見が多くあった。この状況に問題意識を持った「とれたて食楽部」と「Honey! ハニー !!」が、「自分たちの力で社会課題の解決に取り組

みたい」との思いで、乗用車での試行後、移動販売体制を構築した。

地域でも、協議体での地域課題の意見交換、サロン参加者等からの買い物困難に対する課題があがっていたことから、事業者と地域の役員や2層SC等が連携し、通いの場の終了後に訪問できるよう調整した。

取組の概要と特徴

地産地消、安心安全がモットーの「とれたて食楽部」では、移動の足がない・遠くへの運転が不安な高齢者等のため平成 30 年から移動販売をスタート。「とれたて食楽部」からの委託により運転と販売を行うレストランの「Honey! ハニー !!」は、市内の公会堂やコミュニティセンターでの介護予防体操や居場所等の住民主体の通いの場等の開催にあわせて訪問し、地元の新鮮野菜やレストランの惣菜等を販売。運転と販売は若い世代のレストランスタッフが行う。買い物を通じて参加者どうしやスタッフとの会話と笑顔があふれる時間が生まれており、通いの場等の魅力向上にもつながっている。商品は、小分けのものやサイズの小さいもの、季節ごとの地元の豊かな食文化に馴染んだもの

など、地元事業者ならではの柔軟さを活かして準備されている。ケアマネや本人の希望により、個人宅やサービス付き高齢者向け 住宅にも訪問している。



取組・事業の成果

<生活状態の変化> お店まで距離が遠い、体力的にお店まで行くことが難しいなどの悩みを抱える方が近所で気軽に買い物ができるようになった。

<心身の状況や生きがいの変化> 移動販売の利用者同士や販売スタッフとの交流、通いの場への参加により、日常生活の張り合いや生きがいにつながった。

<社会的役割の変化> 支援が必要だった人が役割を持ち、家族や社会を支える側になった。

第9回



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優良賞

取組名

企業と行政がタイアップして取り組む 健康づくり・介護予防

受賞者

イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー
北陸事業部イオン高岡店

所在地：富山県高岡市江尻331-1
電話：0766-25-6800
E-mail：oota-at@aeonpeople.biz
URL：https://www.aeon.com/store/イオン/
イオン高岡店/

活動地域概要		年齢別人口調べ/令和2年7月1日時点	
活動範囲	市区町村内の概ね全域		
総人口	169,530人		
75歳以上人口	56,334人	33.2%	総人口に占める割合
65歳以上人口	29,513人	17.4%	総人口に占める割合
一般世帯数	69,322世帯		
高齢者単身世帯数	2,404世帯	3.5%	一般世帯数に占める割合
高齢夫婦世帯数	15,042世帯	21.7%	一般世帯数に占める割合

毎日の体操と健康関連イベントで高齢者の「4つの不安」を解消し シニア層に優しいお店づくりに

取組・事業の背景、経緯

超高齢化社会において、イオン高岡店では、シニアが持つ「4つの不安」(①時間を持て余す、②身体の不安、③経済の不安、④将来の不安 孤独 / 介護)を解消するために、ラジオ体操やイベントを毎日開催し、シニア層に優しいお店づくりを目指している。

来店客調査を実施したところ、来店客の48%が60

歳以上で、来店頻度週4回以上が6割であったことから、毎日来店して下さる方に情報提供や健康づくりの機会を提供したいとの思いから、本市にイベント開催の協力についての相談があり、連携しながら開催に至った。

取組の概要と特徴

1週間を通じて、午前のはじめにラジオ体操と高岡市オリジナル体操を行い(水曜日のみBCストレッチングによる体操指導)、その後は認知症サポーター養成講座、筋トレ、福祉相談、薬の正しい飲み方や感染症予防の講演会、終活等、日によってさまざまな専門家による健康関連イベントを開催。店舗独自のスタンプカードを作成して継続参加を促している。



取組・事業の成果

- ・このイベントをきっかけに参加者同士の新たなつながりができた。
- ・毎日楽しみにイベントに参加しており、新型コロナウイルス感染拡大防止のために活動を休止していた際も、再開を望む声が多く聞かれ、参加者の生きがいづくりになっていたことが分かる。
- ・体操以外にも認知症サポーター養成講座の開催や終活支援、正しい薬の飲み方、感染症予防等の講演会等も実施しており、健康づくりや介護予防についての知識の啓発普及にもなっている。
- ・定期的に通える場所が増え、高齢者の閉じこもり予防や社会参加につながっている。

第9回



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優良賞

取組名

ふらっとカフェ（認知症カフェ）

受賞者

JAいび川デイサービスセンター清流の里

所在地：岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪 2439-1
電話：0585-21-3666
E-mail：ji04301@jaibigawa.or.jp
URL：-

活動地域概要

揖斐広域連合資料 / 令和 2 年 10 月時点
各市町村ホームページ / 平成 27 年 10 月

活動範囲	複数の市町村にまたがる広域					
総人口	66,852 人			一般世帯数	27,781 世帯	
75 歳以上人口	10,723 人	16.0%	総人口に占める割合	高齢者単身世帯数	2,086 世帯	7.5% 一般世帯数に占める割合
65 歳以上人口	10,503 人	15.7%	総人口に占める割合	高齢夫婦世帯数	3,144 世帯	11.3% 一般世帯数に占める割合

ふらっと立ち寄り、会話で笑顔に 専門職の参加と相談しやすい環境づくりで、
認知症になっても住み慣れた地域での自分らしい生活をサポート

取組・事業の背景、経緯

2025 年問題に対し政府は新オレンジプランを掲げ、取り組みを進めていたことから、揖斐厚生病院においても認知症に対する取り組みの 1 つとして開始。

2015 年頃から認知症に対する取り組みを続け、認知症に対する専門的知識を習得した医師や看護師が活躍している。

少しでも住み慣れた地域での生活を継続してもらうことを目的に、地域へ向けた活動と同じ JA 関連の施設であるデイサービスセンター清流の里と協働し取り組むこととした。気軽に立ち寄ってもらえるために名前は「ふらっとカフェ」とした。

取組の概要と特徴

地元の方や認知症の人を介護する御家族の方、認知症のある御本人とその御家族、ソーシャルワーカー、介護職員、認知症看護認定看護師、歯科衛生士など 10 名から 15 名程度の人数が集まり、お茶を飲みながら、初めの 15 分は専門職が主となり緊張をほぐし、話しやすい環境を作るために、脳トレーニングとしてクイズやゲーム、コグニサイズ、骨盤底筋低下予防体操など

を行う。

その後は自由に座談を行うが、アドバイスする際の伝え方には留意している。専門職が参加することで、病院の受診を拒む方への対応やその御家族のお悩みの相談を受けることもある。イベントを主体とせず、ふらっと立ち寄り、話をして笑顔になることを目的に取り組んでいる。

取組・事業の成果

認知症のあるご家族を介護する苦労や経験を共有することで気持ちが楽になった、専門職に相談することで生活での工夫を試みるようになった、ここでの話をきっかけにソーシャルワーカーや役場にサポートしてもらえるようになったなど、利用者の状況に変化が見られる。

第9回



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優良賞

取組名

できることから始めよう！ 介護予防！！

受賞者

株式会社 小島薬局本店

所在地：静岡県沼津市西沢田 335-1
電話：055-926-8866
E-mail：s-ooishi@jazz.email.ne.jp
URL：https://kojimayakkyoku.com/

活動地域概要 一人暮らし高齢者等実態調査 / 令和1年9月時点

活動範囲	複数の市町村にまたがる広域					
総人口	194,207人			一般世帯数	92,079世帯	
75歳以上人口	60,573人	31.2%	総人口に占める割合	高齢者単身世帯数	6,869世帯	7.4% 一般世帯数に占める割合
65歳以上人口	31,498人	16.2%	総人口に占める割合	高齢夫婦世帯数	4,564世帯	4.9% 一般世帯数に占める割合

薬を調剤する役割から個別の課題を早期に発見 薬局ならではの方法で取り組みを実施 地域包括支援センターと連携して、個別から地域の健康づくりへつなげる

取組・事業の背景、経緯

健康サポート薬局として地域貢献するために、自分たちができる得意分野を活かし更には地域住民に関心を高く持ってもらえることとして、薬剤師・管理栄養士等の活用とポールウォーキング講師と連携することで教育と実践ができると考えた（当該薬局に在籍職員）。

特に高齢者の薬を扱う場として、認知症や残薬の問題・骨や関節の薬の調剤や管理を通じて、医療の有効性と疾病の重度化防止が自立した生活を送るうえで必要不可欠であり、それには疾病の早期発見と初期段階での関わりが必要であることから、活動に至った。

取組の概要と特徴

地域の健康薬局として、健康測定機材を活用し当該薬局が主催する体操教室や栄養教室・薬の教室などを定期的実施。また、健康フェアを年に1度開催し、自らの健康維持等について周知。更にはノルディックウォーキングを月2回継続的に行っている。また、地域包括支援センターと連携し、地域シニアクラブなどを中心に出張講座として体力測定を実施、そのデータを可視化し地域高齢者の身体状況の傾向を提示している。



取組・事業の成果

高齢者は実際に自身の体力等の見える化に対し興味・関心があり、実際に自身が服用している薬に関する話やアドバイスは特に関心を示し、アドバイスは日頃の服用に活かされている。

栄養講座は実際に実食をしたこともあり、特に女性はそのレシピを実践しやすく食事内容に関心を高めることができている。

定例的なポールウォーキングや体操教室は、リピーターが多く、その効果を実感できている様子である。

第9回



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優良賞

取組名

男性シニアボランティアグループが子ども食堂等へ野菜を提供。さらに他分野でも特技を発揮中！

受賞者

鶴見区シニアボランティア アグリ

所在地：大阪市鶴見区諸口5丁目浜6-12

電話：06-6913-7070

E-mail：o_turumi@tas.plala.or.jp

URL：-

活動地域概要

年齢別人口調べ / 令和2年7月1日時点

活動範囲	市区町村内の概ね全域		
総人口	2,751,613人		
75歳以上人口	705,838人	25.7%	総人口に占める割合
65歳以上人口	375,158人	13.6%	総人口に占める割合

※国勢調査 / 平成27年時点

一般世帯数	16,524世帯		
高齢者単身世帯数	5,374世帯	32.5%	一般世帯数に占める割合
高齢夫婦世帯数	4,064世帯	24.6%	一般世帯数に占める割合

住み慣れた地域で暮らす男性シニアが、共通のボランティア活動を通じて居場所や生きがいを増やし、健康な心身を保ち、お互い助け合い、地域社会での活躍の場をさらに広げていく取組

取組・事業の背景、経緯

仕事中心の生活を送ってこられた男性の場合、退職を機に、「これからは、住み慣れた地域で社会参加していこう!」という思いがあっても、そのきっかけや居場所が少ない状況にある。

男性の社会参加や居場所づくりには、きっかけや役

割が重要であるため、鶴見区社協が『男性シニア共同菜園ボランティア講座』を開催。

その修了生達が活動の継続を求め、ボランティアグループが誕生。年会費や助成金を財源に、手づくり野菜の提供活動をおこなっている。

取組の概要と特徴

地元農家と JA 大阪市の協力で休耕地の無償提供、畝づくりの栽培アドバイスをもらい、「鶴見区シニアボランティア アグリ (男性シニア共同菜園ボランティアグループ)」として活動し、栽培した野菜を子ども食堂等へ提供したり、芋掘りによる世代間交流をしたり、活動の輪を広げている。



取組・事業の成果

お互いに支えあい、見守り合う関係が構築され、積極的に人と関わりながら、メンバーそれぞれの得意を活かし、有償ボランティア活動への参加など社会的役割の幅を広げている。より多くの野菜を提供し「子ども食堂など」へ社会貢献できるよう、ボランティア活動助成金の申請にも積極的にチャレンジしている。また、Facebook にて定期的に活動の様子など情報発信もできるようになった。

厚生労働大臣賞 企業部門 優秀賞



取組名 地域における「脳いきいき事業」
発症予防・進行予防・孤立化予防への取り組み

受賞者 株式会社R e 学（りがく）

所在地：熊本県宇城市松橋町古保山 3534-6
電話：050-5838-2959
URL: <https://www.brain-manager.jp/aboutus>
E_mail: s-kawabata@regaku.co.jp

活動地域概要	住民基本台帳／令和元年 11 月 30 日 国勢調査／平成 27 年 10 月 1 日現在		
活動範囲	熊本県（宇城市、天草市、嘉島町、玉東町、苓北町、美里町、五木村）		
総人口	171,518 人		
65 歳以上人口	63,327 人	37%	（総人口に占める割合）
75 歳以上人口	34,899 人	20%	（総人口に占める割合）
一般世帯数	66,299 世帯		
高齢単身世帯数	9,800 世帯	15%	（一般世帯数に占める割合）
高齢夫婦世帯数	8,565 世帯	13%	（一般世帯数に占める割合）

ポイント 認知症共生社会に向け、地域実践を目的とした「脳いきいきサポーター」を養成し、認知症の予防・ケア・地域活動に繋げる。

取組・事業の背景・経緯

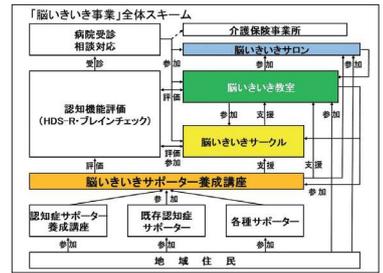
我が国において、団塊世代のすべてが後期高齢者（75 歳）となる 2025（令和 7）年には、約 700 万人が認知症に罹患するリスクが予測されている。「認知症患者数の増加」、「後期高齢者の増加」は、国全体の課題であり、地域包括ケアシステムの充実の観点からも最重要課題である。人口比における認知症サポーター養成数が 10 年連続 1 位の熊本県は、2025（令和 7）年には約 11 万人が認知症に罹患すると予測されており、認知症サポーター養成後の地域における実践活動が課題となっている。

取組事業の概要と特徴

熊本県内における市町村（宇城市、天草市、五木村、玉東町、嘉島町、苓北町、美里町）ごとに、市町村、地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携し、地域住民が主体的に認知症予防 3 本柱（発症予防・進行予防・孤立化予防）に関わる活動を計画した。

- 計画①：「脳いきいきサポーター養成講座」を開催（認知症サポーターの地域活動のための実践講座：教室・サークル・サロンをサポート）
- 計画②：「脳いきいき教室」を開催（基本チェックリストでの認知機能ハイリスク者、セルフケアへの意識が高い方が教室に参加）
- 計画③：「脳いきいきサークル」を開催（脳いきいき教室修了生の活動の場を整備）
- 計画④：「脳いきいきサロン」（地域住民が最寄りの場所に集まり認知症予防活動を行う「通いの場」等の設置）

- 工夫点①：事前に「認知症フォーラム」等の啓発活動や、広報誌による「脳いきいきサポーター養成講座」開催の呼びかけを実施。
- 工夫点②：オレンジリング取得者のうち前期高齢者層および地域における各種活動実践中の地域住民に対して呼びかけを強化。
- 工夫点③：脳いきいきサポーター、脳いきいき教室参加者、脳いきいきサークル参加者に対し、6 ヶ月ごとの認知機能評価を行い、MCI（軽度認知障害）リスク者や、軽度認知症リスク者には、本人・家族説明後、早期受診、早期生活支援を実施。
- 工夫点④：脳いきいきサポーターには、年間 4 回のフォローアップ講座を定期開催し、支援の質・量を保つ。



脳いきいきサポーター養成講座



脳いきいきサロン

取組事業の成果

社会との繋がりが薄い高齢者が、「脳いきいき事業」へ参加することで、社会との繋がりが得られた上、ご本人の生活状況の把握や認知機能の状態把握ができた。

毎週の脳いきいき事業（教室・サークル・サロン）に参加したり、ホームプログラムを自宅や地域で実施することで、認知機能が向上した。

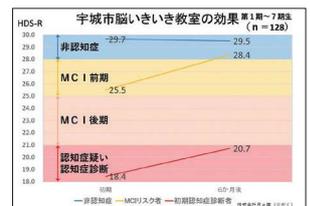
認知機能評価を、サポーターを含めた事業参加者に実施することで、ハイリスク者への面談や家族を含めた会議、病院受診・早期発見、運転免許の返納ができた。

病院受診の拒否や、自動車運転免許返納に苦慮する対応困難ケースにも、認知機能評価の結果説明が「きっかけ」となり、病院受診や免許自主返納へと繋がった。

認知症の理解の説明や、ケア場面における対応・コミュニケーションの支援を、脳いきいきサポーターが地域住民に直接伝え、地域住民同士でサポートができています。

地域で生活する認知症の方への理解が増し、認知症の有無に関わらず、誰もが暮らしやすいまちづくりが推進されている。

地域の介護保険事業所の職員の方も「脳いきいきサポーター」となり、教室やサークル、サロンを自主的に支援いただき、事業所間連携や、意見交換の場が増えた。



厚生労働省老健局長賞 企業部門 優良賞

第8回



健康寿命を
のばそう！
AWARD
優良賞

取組名 おでかけリハビリ (おでりハ)

受賞者 函館朝市協同組合連合会

所在地：北海道函館市若松町9番19号
電話：0138-22-7981
URL：http://www.hakodate-asaichi.com/
E-mail：—

活動地域概要	住民基本台帳人口/令和元年10月31日現在 国勢調査/平成27年10月1日現在		
活動範囲	函館市内全域および周辺自治体		
総人口	255,919人		
65歳以上人口	89,901人	35%	(総人口に占める割合)
75歳以上人口	46,054人	18%	(総人口に占める割合)
一般世帯数	123,651世帯		
高齢単身世帯数	20,148世帯	16%	(一般世帯数に占める割合)
高齢夫婦世帯数	16,258世帯	13%	(一般世帯数に占める割合)



ポイント

“おでかけそのものをリハビリとする”独自のヘルスケアプロジェクト。要支援・要介護者を含む高齢者を中心に、「買い物・食事・レクリエーション」を組み合わせたリハビリができる環境を創りあげ、商業施設内での「活動・運動・交流」によって、商環境の活性化も図る。

取組・事業の背景・経緯

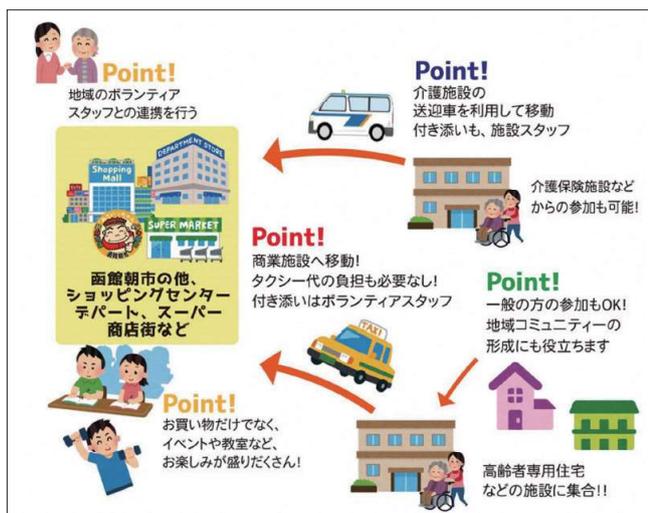
函館朝市は観光地のイメージが定着しているが、元々は市民の台所であり、現在の市民にもっと利用してほしいと考えていた。しかし現在は高齢化の進行により、買物に不自由な方が多くなっているほか、店員と利用客との交流が減少している状況にあった。

このため、「活動・運動・交流」ができる場を創出して地域の方々に再び足を運んでいただき、心身ともに健康になっていただくことを目的として、地域貢献の視点で賛同する会社（デパート、スーパーマーケット、介護関係者、タクシー会社等）を募り、函館朝市協同組合連合会が中心となって、「おでかけリハビリ推進協議会」を設立した。

取組事業の概要と特徴

函館朝市が有する多目的スペース（朝市ひろば2階）や、大型スーパーマーケット等の商業施設を活用し、理学療法士の監修による介護予防に資する体操や、飲料品・化粧品メーカー等と連携した、お茶の入れ方・美容等のレクリエーションを実施し、最後に店舗での食事や買物を楽しんでいただく。

なお、平成30年度からは参加者とボランティアスタッフの双方に1回の参加につき2枚のコインを付与し、10枚貯めると500円の商品券に交換できる独自のポイント制度「おでかけコイン」を導入している。



取組事業の成果

以下のような成果が表れている。

- ・店員やボランティアスタッフとの会話や交流など、利用者のコミュニケーションの機会の増
 - ・利用者の外出意欲の増進（平成30年度のリピーター率が約80%）
 - ・利用者が要支援者または要介護者の場合、「リハビリ」と感じさせないことで自然に歩行距離が伸びているほか、本人のリハビリのモチベーションが変化している。（例：安全に歩く → 〇〇に行く、山を登る など）
- 開催回数の増加に伴い、参加者数や参加店舗の売り上げも伸びてきている。

	(平成29年度)	(平成30年度)
・開催回数	24回	→ 80回
・参加者数	延400人	→ 延900人
・推定売上	100万円	→ 200万円



厚生労働省老健局長賞 企業部門 優良賞



取組名 誰もが笑顔になれる場所 ちばる食堂

受賞者 ちばる食堂

所在地：愛知県岡崎市久後崎町キロ 7-1
 電話：090-6092-0069
 U R L : <https://ameblo.jp/cityriver8131/entry-12428894699.html>
 E_mail : cityriverhaisai@gmail.com

活動地域概要	令和元年 10月1日現在 岡崎市統計ポータルサイト 国勢調査／平成 27年 10月1日現在		
活動範囲	限定なし		
総人口	387,879 人		
65 歳以上人口	89,301 人	23%	(総人口に占める割合)
75 歳以上人口	42,319 人	11%	(総人口に占める割合)
一般世帯数	147,213 世帯		
高齢単身世帯数	10,939 世帯	7%	(一般世帯数に占める割合)
高齢夫婦世帯数	28,497 世帯	19%	(一般世帯数に占める割合)



認知症でも大丈夫。認知症のスタッフが、毎日働く食堂です。居場所・役割があること、人とふれあうことで笑顔が生まれ、地域の繋がり・まちづくりへと広がっています。

取組・事業の背景・経緯

【背景】

介護施設で働かなかで、認知症や要介護状態であっても環境や支援があればできることは沢山あると実感するが、社会の理解が広まらない。施設ではなくまちのなかで認知症の人が就労できないか、認知症の人と住民が交流できる場を作れないか模索した。

【経緯】

介護福祉士として老人保健施設に勤務していた市川氏が、「注文を間違える料理店」の取り組みに参加する中で、認知症の人が働くことが本人の生きがいに繋がると確信し、沖縄そばの店を構想。イベントとしてではなく、常設の認知症の人が働く食堂作りを目指す。考えに賛同した会社が、元デイサービスだった場所を紹介。理解者や仲間を増やし、平成 31 年 4 月に開店。認知症の診断がある要支援、要介護認定を受けたスタッフが働き賃金を得るという常設の食堂ができる。

食堂だけでなく、介護予防の場としても活用できるよう地域包括支援センターと地域住民と話し合いを実施。週 1 回の通いの場、重りを使った体操、岡崎ごまんぞく体操を開始する。

また、市街地に立地しているものの長距離を歩いて移動することが難しい高齢者も近隣に多く、地域包括支援センターと地域住民と買い物支援について検討し、定休日の駐車場を活用した移動販売を開始。

子どもたちや若者世代にも思いを届けるため、マイムマイムフェスを企画実施し、「認知症の人」とひとくりにされない、誰もが楽しく過ごせるまちを目指して行動している。

取組事業の概要と特徴

【取組内容】

認知症と診断された方が接客をするお店を運営。地域の交流拠点としても活用できることで地域に根ざした食堂を目指している。認知症の理解者を増やし、認知症の人と住民が笑顔で接する機会を増やし、「認知症の人」と垣根を作らないで当たり前前に皆が暮らせるまちを目指して様々な取り組みを実施している。

週 1 回の通いの場、岡崎ごまんぞく体操の会場として地域住民に開放。

放課後、子どもが気軽に立ち寄り宿題などをすることができる。

PTA の会合、サービス担当者会議、教室などでの利用も可能。

注文を間違えても大丈夫、お客さんも片付けだって手伝う。

地元の応援者（ボランティア、仲間）がお店をささえる。

福祉に関するイベントも応援者とともに開催。

三線の演奏会、終活の勉強会、学童との交流などを実施。

乙川マイムマイムフェス、ノーマライゼーションフェスタ岡崎などのイベント企画・参画

定休日は、移動販売の場所として場所を提供。学生の職業体験も積極的に受け入れ。



取組事業の成果

【認知症スタッフの変化、住民の変化】

認知症の診断があり、要支援、要介護認定を受けているスタッフが、就労という生きがいができ、人との会話も増え、容姿を気にする様子や人に話しかける積極性もみられるようになる。

意欲の減退や物とられ妄想などの周辺症状も消失、笑顔や自信の満ちた表情に変わる。

初めは立っただけだったスタッフが、客に笑顔で話しかけるようになっていく。

塗り絵を習慣としているスタッフは、色に力強さが生まれる。

客として来店する住民は、認知症高齢者が接客していることに驚くとともに、生き生きと働く姿を見て認知症でも人と人との交流の中で働くことが大切なことを実感する。

認知症でも働きやすくするために、メニューを絞る、文字を大きくするなどの工夫をすれば、できることが広がると理解する。

注文を忘れてしまう、テーブルを迷ってしまってもお客さんの少しの支えと声かけがあれば認知症でも働くことができることを、皆が理解する。

仲間や支援者が徐々に増え、認知症に限らず疾患や年齢、立場などに縛られず、皆ができることをやることにより笑顔と繋がりが広がっている。

開店当初は、「認知症の人が働く店」を見に来ていたお客さんも、「認知症の人が働いているのは当たり前。美味しい沖縄そばを食べに行く。」という認知症の人が地域に居ることが当たり前になりつつある。



厚生労働大臣 企業部門 優秀賞



取組名 ミライシニアプロジェクト

受賞者 合同会社P-BEANS

所在地 愛知県豊田市寿町 7-7-5
 電話 0565-41-6290
 URL www.p-base.co.jp/company.html
 E_mail info@p-base.co.jp

活動地域概要 豊田市住民基本台帳
 地域包括ケア「見える化」システム (2015年時点)

キーワード

ミライシニアを増やし、病気になっても年齢を重ねても一生涯活躍できる【地域】を目指して！！

活動範囲	愛知県豊田市	
総人口	422,542 人	
65歳以上人口	87,315 人	20.66% (総人口に占める割合)
75歳以上人口	35,304 人	8.36% (総人口に占める割合)
一般世帯数	169,460 世帯	
高齢単身世帯数	9,535 世帯	5.62% (一般世帯数に占める割合)
高齢夫婦世帯数	13,380 世帯	7.90% (一般世帯数に占める割合)

取組・事業の背景・経緯

背景として、愛知県豊田市は65歳以上の労働者の割合が7%であり、全国的にみると就労割合が少なく、さらには介護保険受給者になると、病気に対する不安が強く、生きがいを持っている人が少ないことが分かり、障がいを持っていても生涯活躍できる社会をつくるために活動を始めた。経緯として、デイサービスの中で、利用者の特技を生かした活動を行っており、豊田市の市民提案社会事業支援プログラム「市民発！ミライ☆チャレンジプロジェクト」に採択され、平成28年度から地域の社会資源と共働で当プロジェクトを実施するようになった。

取組・事業の概要と特徴

何かしらの障がいを抱えるシニアには、地域包括支援センター・介護支援専門員が相談者として担当しているが、介護サービス利用の促しが多く、地域資源とのつながりが少ないのが現状ではないかと考え、下記内容を取り組んだ。

- ①生きがい創出のためのミライシニア定例会
 - 1) 本人の強みの評価 2) 夢や目標の設定 3) 身体機能や家族構成などの集団アセスメントの実施
 - ②フチ起業支援
 - 1) ビジネスモデル作成 2) 事業内容の決定 3) サポーターの募集 4) 商品の値決め 5) チーム分け
 - ③構成メンバーにおけるコアメンバー会議 (毎月)
 - 1) チーム毎の進捗状況確認 2) 問題点の抽出 3) 次回定例会の進め方など
- ※構成メンバー：豊田市役所、社会福祉協議会、交流館、地域包括支援センター、ボランティア団体、民生委員などのメンバーと協働しながら、一人一人に必要な地域資源とつなぎ、その後のフォローアップを実施している。

取組・事業の成果

1 就労支援型デイサービス運営

(デイサービスの中で就労体験)

ご利用者25名 (内職、箱折り、日曜大工、内職、チラシ折りなど)

2 ミライシニア定例会

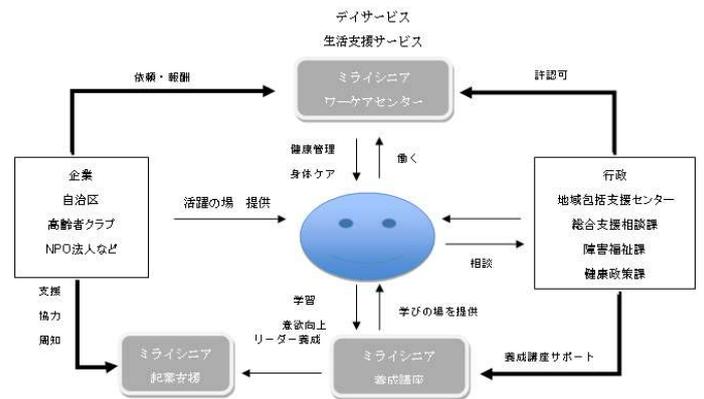
(会場：竜神交流館 竜神カフェと共同開催)

参加者：ミライシニア10名、ミライシニアサポーター15名 (以下の①～④)

- ①豊田市福祉総合相談課、社会福祉協議会 ②公益財団法人あすて
- ③ひまわりの街地域包括支援センター、基幹包括支援センター、竜神交流館 ④民生委員、地域ボランティア

3 フチ起業支援

- ①サロンde・乃ム楽 第2、3木曜日、金曜日、料金 5000円/回 継続参加者18名
 - ②日曜大工 子ども向け木工教室 2回/年 1500円/回 折り畳み机 (7月29日) 参加者：15名 折り畳み椅子 (10月14日) 参加者：11名
 - ③手芸 手提げバック、エコバック (傘から)、シュシュ、シートベルトカバー
 - ④オーダーメイドバック (リユース) ランチョンマットなど
- ※作品は自治区の祭りや市内の祭りに出店し、売上を一部寄付



手芸グッズ販売



冬休みキッズ木工教室



サロンde・乃ム楽

厚生労働省老健局長賞 企業部門 優良賞



取組名 養父市地域支え合い買い物支援活動

受賞者 移動販売活性化協議会

所在地 養父市上野 1681-2 (事務局)
 電話 090-5010-0900 (代表)
 URL —
 E_mail —

活動地域概要 養父市の人口と世帯 (平成 30 年 10 月末現在)

活動範囲	兵庫県養父市		養父市の概ね全域
総人口	23,840 人		
65 歳以上人口	8,808 人	36.95%	(総人口に占める割合)
75 歳以上人口	5,034 人	21.12%	(総人口に占める割合)
一般世帯数	9,452 世帯		
高齢単身世帯数	1,984 世帯	20.99%	(一般世帯数に占める割合)
高齢夫婦世帯数	1,322 世帯	13.99%	(一般世帯数に占める割合)

キーワード

日常生活に必要な食料品、日用雑貨などの購入が困難な地域に対し、買物の機会を確保し、買い物の不便さを解消する。見守りや安否確認も行い、高齢者等の安全・安心な生活を守るように支援する。

取組・事業の背景・経緯

地域の特徴として、自宅の近隣に商店がない。またはあっても商店から自宅は遠い。交通の便も整っておらず、買い物が困難な暮らしをしている独居高齢者や高齢者世帯が多い。

以前から買い物支援を目的に、地域に向かい移動販売する業者があった。販売者も高齢化して移動販売を辞める話が出始めた時に、自治体の補助金事業（養父市地域支え合い買い物支援事業）の取組があり、同業者が仲間を増やして継続しようと移動販売活性化協議会を設立して活動を開始した。

昭和初期

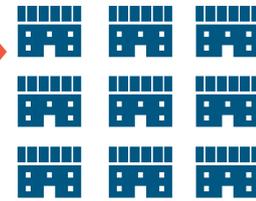
自転車で行商 1 事業者 1 台
 販売地区 9 地区 (13 地点)



業者がそれぞれオリジナルソングで呼びかけながら販売場所に向かう

現在

移動販売車 9 事業所 12 台
 販売地区 110 地区



取組・事業の概要と特徴

- ・移動販売活性化協議会会員：9 業者。移動販売車両台数：12 台（販売車両購入費及び車検費の一部補助を受けて活動）
 - ・市内の移動販売地域の拡大を図りながら買い物困難地域の解消。買い物困難地域があれば、区長から要望を聞き、その地域を移動販売車で巡回する。9 事業者で話し合い、必ず週 1 回は販売車が行けるように計画する。
 - ・市の安心見守りネットワーク事業にも参画し、業務中に高齢者などへ声掛けなどを行い、地域を巡回する際に高齢者などの見守りを行い、安心・安全な地域づくりに協力する。
- (特徴)
- ・一人でも販売希望があれば出向くように取り組む。
 - ・食料品のみ販売車であってもボランティア活動として日用品の希望があれば準備する。
 - ・重い品物は自宅まで運ぶ。販売車まで来られないときは注文を伺いに行く。
 - ・常連客が買い物に来ない日は、安否確認の意味で声をかけて自宅まで行く。
 - ・外に出るきっかけづくりや利用者とのコミュニケーションを図る。



取組・事業の成果

- ・移動販売車が来る日を楽しみに待つようになっている。関係性が良好である。
- ・配達時間に、利用者の人数分の椅子を並べ、井戸端会議をしながら、販売車の到着を待つようになっている。住民同士がお互いの安否確認をする機会となっている。
- ・巡回中に「息子から金を振り込めと相談された」と慌てる高齢者に会い、相談に乗り、振り込め詐欺を未然に防ぐ結果となった。
- ・巡回中に雪道で倒れている高齢者を発見し、救急搬送につなげて救助できた。





取組名 配食サービスを軸とした総合的な生活支援の充実

受賞者 株式会社 南阿蘇ケアサービス

所在地 熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石 2721-2
 電話 0967-67-1606
 URL https://www.minamiasocare.com/
 E-mail minamiasocare@gmail.com

活動地域概要 平成 30 年 10 月 31 日時点 南阿蘇村役場住民福祉課調べ

キーワード

配食サービス、フレイル予防、震災復興、見守り・買い物弱者支援、介護保険外自宅訪問サービス、地域の集い場

活動範囲	熊本県南阿蘇村	阿蘇村の概ね全域
総人口	10,631 人	
65 歳以上人口	4,216 人	39.66% (総人口に占める割合)
75 歳以上人口	2,210 人	20.79% (総人口に占める割合)
一般世帯数	4,510 世帯	
高齢単身世帯数	991 世帯	21.97% (一般世帯数に占める割合)
高齢夫婦世帯数	1,550 世帯	34.37% (高齢者のみの世帯、単身除く)

取組・事業の背景・経緯

南阿蘇村の現状

熊本県南阿蘇村は、農業・観光を中心とした高齢化率 35.52% (平成 28 年 3 月 31 日時点) の農山村地域であった。平成 28 年 4 月の熊本地震では、甚大な被害を受け、熊本市内へ通じる主要道路すべてが通行不可能となり、日常生活に多大な影響をもたらした。地震をきっかけに若年層の人口流出が進み、高齢化率も 39.66% (平成 30 年 11 月 1 日時点) と急激に上昇し、要介護認定率も県平均を上回っている。

事業開始の背景・経緯

平成 28 年 4 月の熊本地震では、集団移転や仮設住宅での暮らしを余儀なくされた方も多い。震災により高齢化率の上昇も見込まれ、買い物弱者や低栄養者の増加、心身機能の低下が懸念されていた。当事業所の運営推進会議の場において、一人暮らしの配食サービス、生活支援サービス、地域の人が集える居場所があったらいいのではないかと提案があった。被災地における福祉事業所として住民地域ニーズに応えることが使命であり、平成 28 年度熊本県中山間地域等創生による地域包括ケア推進事業補助金の申請を行った。

具体的な内容

南阿蘇村の高齢者の困りごとを支える取組を行い、在宅生活を継続するために必要な支援を行う。

- ①管理栄養士のもとで作られたお弁当を一食分から注文可能とし自宅へ配達する。利用者の安否確認・見守りを行うことを目的とする「菜々かまど」
- ②介護保険適用外の自宅訪問サービスを行い、日常生活上の困りごとを支援する「結+」
- ③地域交流を目的とした集い場「のんびり福幸カフェ」



取組・事業の概要と特徴

平成 28 年 4 月の熊本地震による甚大な被害を受けた南阿蘇村地域において、配食弁当を通じた高齢者に対するフレイル予防を目的として 2016 年から取り組んでいる。管理栄養士のもと、栄養バランスの取れた安心安全なお弁当を配達、定期的な訪問は利用者の安否確認・見守りを可能とし、栄養改善や家族のレスパイトケアの寄与、震災による買い物弱者への支援にもつながっている。当初は数人程度の利用人数であったが、近所の方や民生委員からの口コミ紹介が増えて、弁当の利用者数は大幅に増加した。

平成 30 年度より、南阿蘇村が実施する高齢者のフレイル予防の栄養改善を目的とした介護予防・生活支援サービス事業の 1 メニューとしてリスタートすることとなった。弁当の提供にあたっては村に 3 か所ある地域包括支援センターからの紹介が要件であり、地域包括支援センターは日常のチェックリストに基づき対象者を決定している。高齢化率 39% を超える南阿蘇村において、食を通じた高齢者の健康づくりに寄与している。

その他の継続した取組としては、介護保険適用外自宅訪問サービス「結+」および地域の集い場「のんびり福幸カフェ」を実施している。前者は 65 歳以上の独居・夫婦世帯に対して調理、洗濯、買い物代行等のサービスを提供する。後者は月に一度、当社の地域交流スペースを使って、低料金でケーキセットを提供し、地域住民、施設利用者にとっての楽しみの時間となっている。カフェ開催時には移動販売書店やハンドマッサージボランティアも参加して好評を得ている。

取組・事業の成果

熊本県中山間地域等創生事業補助金を活用して、南阿蘇村地域高齢者の困りごとを支える取組 (3 事業) を行い、在宅生活を継続するために必要な支援を行ってきた。平成 30 年度より、宅配弁当事業については、南阿蘇村高齢者の介護予防・生活支援サービス事業の 1 メニューとして、栄養改善を目的とした配食事業として開始することとなった。弁当利用者に対して実施したアンケートの結果によると、体調がよくなり体重が増えた、食欲が出て食事が楽しくなった、配達員が定時に弁当を持っていくことで人と話す機会が増え、安心感を得られるようになったとの意見があった。また、弁当は安否確認を兼ねており、原則手渡しで、何かあればキーパーソンへ連絡することも行っている。認知症の方の一人暮らしの支援として、配食サービスが重要な役割を果たしているケースもある。

介護保険適用外自宅訪問サービス (生活援助)、地域交流を目的とした月に一度の集い場の開催も自主事業として展開し、配食サービスを軸とした総合的な生活支援の充実を目指して、地域ニーズに対応した活動を今後も継続して行っていきたいと考えている。

安否確認を兼ねて原則手渡し。表情や様子をよく取り何かあればキーパーソンへ連絡する。

熊本県地域包括ケア推進事業 配食弁当「菜々かまど」

地産地消を大切に、栄養バランスのとれたお弁当
おかずのみの場合 400 円
ごはん付きの場合 500 円

南阿蘇村介護予防・生活支援サービス事業

健康寿命をのばそう!アワード
 厚生労働大臣 最優秀賞
 企業部門
 厚生労働大臣 優秀賞
 団体部門
 自治体部門
 企業部門
 厚生労働省老健局長 優良賞
 団体部門
 自治体部門



◎取組名◎ 高齢者向け複合施設「そいよかね」を中心とした介護予防・高齢者支援の取組及び行政連携事業

◎受賞者◎ 株式会社ミズ(佐賀県佐賀市)

所在地 〒840-0054 佐賀県佐賀市水ヶ江1丁目1番11号
 電話 0952-22-7974
 URL http://www.miz-pharmacy.co.jp/
 E_mail iribe@miz-pharmacy.co.jp

活動地域概要 佐賀市世帯調査(佐賀県佐賀市)

活動範囲	佐賀県佐賀市北川副町		小学校区単位
総人口	234,152人		
65歳以上人口	62,476人	26.7%	(総人口に占める割合)
75歳以上人口	32,225人	13.8%	(総人口に占める割合)
一般世帯数	99,176世帯		
高齢単身世帯数	9,106世帯	9.2%	(一般世帯数に占める割合)
高齢夫婦世帯数	18,167世帯	18.3%	(一般世帯数に占める割合)

キーワード

- ①地域と薬局が協力することで、介護予防・高齢者支援へ貢献する
- ②行政と企業が連携を図り、新しい形の公共事業を構築する

取組・事業の背景・経緯

薬局・薬剤師の地域包括ケアシステムへの積極参加を推進

住みなれた地域で暮らし続ける為の地域包括ケアシステムにおいて、薬局・薬剤師単独で協力できる部分はまだまだ限定的であると思います。そこで、株式会社ミズ(以下、ミズ)は地域住民や行政と薬局・薬剤師が連携する中で地域のニーズを知り、それらに対応していくことで、より積極的に地域包括ケアシステムへ参加していくことを目指しています。

平成24年7月に佐賀県と「健康増進！佐賀県とミズとの連携と協力に関する協定」を締結。高齢者の皆様の健康増進を目的として、これまで地域高齢者サロンへ薬剤師を派遣した健康講座の開催や、認知症への理解を深めて頂く為の認知症サポーター養成講座など様々な活動を県内にて実施してきました。また、平成26年6月に佐賀県佐賀市木原に高齢者向け複合施設「そいよかね」(以下、「そいよかね」)を開設。「そいよかね」とは佐賀弁でそれいよねという意味。施設の構成は高齢者介護施設、クリニックモール、薬局・コンビニエンスストア、菓子店)これを機に、これまで佐賀県との連携の中で培ってきたノウハウを活かし、当該施設をモデルケースに地域住民、行政と連携した取組を推進しています。当該施設も開業から3年が経過し、様々な取組を実施してきましたが、現在も薬局・薬剤師が地域包括ケアシステムの中でどの様にお役立ちできるのか模索しています。

取組・事業の概要と特徴

対話を通じて地域課題を抽出し、地域と協力して課題解決へ

ミズは組織内に地域・行政との連携の担当部署を設け、①地域と薬局を繋ぎ、新しい価値を創出すること、②行政との連携を図り、新しい公共事業を構築することの2点を事業目的とし取り組んでいます。

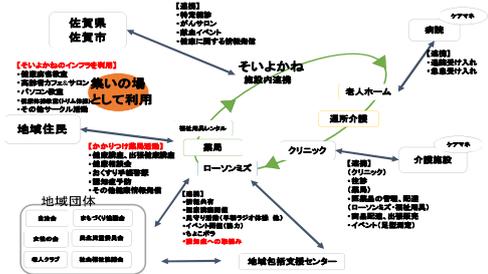
「そいよかね」を活用した取組について、地域のニーズを知るために、そして、地域にミズの取組を知ってもらうために、毎月地域の自治会長や民生児童委員などの団体代表者との意見交換の場を設けています。その中で、地域の取組や課題と感じられていることをヒアリングし、取組に繋げています。現在、地域の高齢者を取り巻く課題として見えてきたものは、軽度認知症の方の引きこもりと見守り、高齢者の社会参加の促進です。そこで、ミズでは施設の一部を地域住民の方へ開放し、歌声喫茶やサークル活動、高齢者サロン開催会場として貸し出すなど「そいよかね」が「集いの場」となる取組をおこなっています。また民生児童委員さん向けの講座(高齢者宅へ訪問した際に気にかけることなど)を毎月開催するなど薬剤師の職能を活かした取組も実施しています。行政との連携では、施設を活用した健診イベント「コンビニ健診」の開催を平成27年度より実施しており、平成29年10月現在累計10回の開催、地域の方を中心に延べ人数で1,000名を越える方に健診を受診いただいています。そして、昨年度からは薬局でがん検診受診勧奨の講座を9月のがん征圧月間にあわせて開催。講座受講後にがん検診を受診された方から1名早期がんが発見されました。今後は地域と行政との三者連携を強化していきたいと考えており、認知症カフェの開催や介護予防事業と自主的な介護予防の取組の融合などの実施を検討しています。

取組・事業の成果

社会参加が生きがいを生む

老人介護施設を利用した歌声喫茶は開催当初は10名程度の参加者から毎月約50名(内地域住民20名)が参加するイベントに成長。施設を利用したサークル活動は現在4団体が利用されており、その活動内容はパソコン教室、健康麻雀教室、健康体操教室と多岐にわたっています。なお、サークル活動及び高齢者サロンの参加者は10名程度から最大30名程度となっています。こうした「集いの場」へ参加されている高齢者の皆様の変化を見ていると、そこに新しいコミュニティが形成され、別の地域活動やボランティアへ参加されるようになるなど、社会参加の促進に繋がっていることがうかがえます。また歌声喫茶に参加されている方からは「生きがいです」と嬉しいお言葉を頂戴することもありました。やはり、人とふれあい、交流することが活力を生み、健康寿命の延伸へ繋がるのではないかと実感しています。

また、薬局・薬剤師の取組では健康講座やイベント等を開催することで、地域住民と接点を増やし、気軽に健康相談をして頂ける関係づくりを目指しています。これまで講座を受講した方などから、健康相談の電話をいただくことや薬剤師やスタッフの紹介で健診、がん検診受診の行動変容に繋がることも増えており、これまで脳梗塞症状の早期対応や早期がんの発見に結びつくなど、健康サポート薬局としての機能の強化にも繋がっています。





取組名 JAあまるめ地域支援事業

受賞者 余目町農業協同組合(山形県東田川郡庄内町)

所在地 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地172番地
 電話 0234-45-1500
 URL <http://www.ja-amarume.or.jp/>
 E-mail soumu@ja-amarume.or.jp

活動地域概要 住民基本台帳 H29.4.1時点

活動範囲	山形県東田川郡庄内町	庄内町の概ね全域
総人口	21,792人	
65歳以上人口	7,530人	34.6% (総人口に占める割合)
75歳以上人口	4,198人	19.3% (総人口に占める割合)
一般世帯数	7,050世帯	
高齢単身世帯数	939世帯	13.3% (一般世帯数に占める割合)
高齢夫婦世帯数	1,596世帯	22.6% (一般世帯数に占める割合)

キーワード

「抛り所しゃんしゃん」を拠点として、地域住民や高齢者の地域の関わり、生きがい作りの活動をしています。

取組・事業の背景・経緯

平成24年頃からJAあまるめでも福祉事業に着手してほしい旨の要望が組合員・地域住民からあったため、調査検討を行い、平成27年、組合員へのアンケート調査を実施しました。その中で、「買い物支援」「食材の配達」「配食(弁当配達)」「語らいの場」のサービスを提供してほしいとのアンケート結果が出されました。

これまで頑張ってきた地域の方々への恩返しができるような事業展開を目指し、平成28年10月に「抛り所しゃんしゃん」を開所しました。利用者のくつろぎの場、交流の場となることで、自分らしく元気に暮らしてもらうことを目的としています。また、「農協便利しゃんしゃん号」による食材宅配・配食は、外出困難者への支援とともに、地域の見守りの役割も担っています。

庄内町では、平成29年4月から「医療・介護・予防・生活支援」が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現に向け、町が関係機関とともに取り組んでいくこととなりました。JAあまるめでは、地域包括ケアシステムの「予防」の分野、「一般介護予防」と「食材宅配サービス事業」を行い、地域包括ケアシステムの一翼を担うこととなりました。

取組・事業の概要と特徴

「抛り所しゃんしゃん」では、月～金曜日の午前中、65歳以上を対象に介護予防体操(健康元気アップ教室)を実施、午後からは、趣味の時間として健康マージャン、手芸等を行っています。また、金曜日の午後からは、年齢制限なしの健康講話や交通安全教室等の「金曜しゃんしゃん塾」を開講しています。

宅配「農協便利便」では、「しゃんしゃん号」で65歳以上の1人暮らしの方等に食材や弁当を配達すると同時に、会話を通して健康状態を聞き取り、不安解消するなど、“生活と健康の見守り”を実施しています。

「抛り所しゃんしゃん」では、子育て支援センターとの連携により、若いお母さんや小さな子供との交流や、高校生の交流の場など、多世代交流の場としても活用しています。

また、利用者には、3ヶ月ごとに介護予防のための「基本チェックリスト」(チェックリスト内容:日常生活関連動作、運動器の機能、栄養状態、口腔機能、閉じこもり、認知症、うつに関すること)を実施してもらい、体力強化の効果の検証、活動の総括を行っています。運営側も、半年ごとにボランティア会議を開催し、感想、反省、総括し、改善を図っています。



取組・事業の成果

高齢者の抛り所として、月曜日から金曜日の午前中は誰でも簡単に参加できることから、居場所ができたとの声や、顔見知りのスタッフが常時いることから安心して利用できると口コミで利用者が増加しています。この場所がなかった時は、1日中自宅で誰とも話さない日が多かったが、「しゃんしゃんに行く日」とメリハリのある生活ができ、健康体操をした後の「おしゃべりタイム」を楽しみにして利用している方も多です。運動効果としては、足の上げ下げが実感として、以前より楽になった等の利用者からの感想と、実際一緒に体操しているスタッフも上りの幅だったり、伸びの間隔だったり効果が目にみえるなど、“転倒防止の為に筋力アップ”の効果がみられます。6ヶ月継続利用者53名中12名が介護予防のための基本チェックリストで改善があり、町全体の介護認定者数でみても、平成17年度から右肩上がりでしたが、平成28年度は前年度と比べ減少しました。また、体操参加者に実施している血圧測定の時間では、スタッフによる健康相談を一人ひとりに実施することにより、病気だけでなく、心の悩みの発見がありました。家族からは、気付いてもらい良かったという声や、普段は昼まで布団から出てこない時もあるが、しゃんしゃんに行く日は、お化粧をして、明るく、帰ってきてからもいろんな話をしてくれるようになった、という声を聞きます。「抛り所しゃんしゃん」を通して、家族のコミュニケーションも深まっています。



企業部門 優良賞



取組名

(有) 静内ケアセンター福祉村構想

受賞者

有限会社静内ケアセンター

所在地 ●〒056-0023 北海道日高郡新ひだか町静内ときわ町3-12-25
 電話 ●0146-45-0020
 E-mail ●st0521@topaz.plala.or.jp

地域概要 [北海道日高郡新ひだか町]

取組の活動範囲：市区町村内の概ね全域
 総人口：25,419人
 65歳以上人口：6,973人 (27.4%)
 75歳以上人口：3,552人 (14.0%)
 一般世帯数：10,967世帯
 高齢単身世帯数：1,407世帯 (12.8%)
 高齢夫婦世帯数：1,501世帯 (13.7%)

キーワード 町のデイサービスが休みとなる土日・夜間の対応、介護保険制度の隙間を埋める支援

取組の概要と特徴

施設・職員・住民力で支え合いのまちづくり

介護保険制度だけでは支えきれない地域住民のニーズに応える、平成17年から続く取り組み。家に閉じこもりがちな認知症の要介護高齢者を対象に、町のデイサービスが休みとなる土・日曜および夜間にデイサービスを提供する。

当センター職員をはじめ、近隣のお母さんたちが食材を持参したり、食事づくりを担当するなど、ボランティアの協力を得ながら継続的な運営を実現。住民の方々を巻き込むことで、当センターの幅広い機能や行事等の周知ができるうえ、介護予防や生活支援など様々な面での地域貢献につながっている。



企業部門 優良賞



取組名

「まちかどよろず相談会」の開催

受賞者

株式会社ホクノー

所在地 ●〒004-0014 北海道札幌市厚別区もみじ台北7丁目1-2
 電話 ●011-897-2012 (代)
 U R L ●http://www.hokuno.com
 E-mail ●customer@hokuno.com

地域概要 [北海道札幌市厚別区]

取組の活動範囲：中学校区単位
 総人口：128,492人
 65歳以上人口：28,185人 (21.9%)
 75歳以上人口：12,700人 (9.9%)
 一般世帯数：54,036世帯
 高齢単身世帯数：5,147世帯 (9.5%)
 高齢夫婦世帯数：6,572世帯 (12.2%)

キーワード 多様な主体の協働、住民に身近なスーパーへの相談窓口の設置

取組の概要と特徴

多くの住民が利用するスーパーでつながりをつくる

少子高齢化が進行する郊外住宅地もみじ台において、つながりづくりと孤立防止を目的に、民生委員、地区社協、NPO、行政書士、地域包括支援センター及び介護予防センター等と、地元企業の株式会社ホクノーが協働し、株式会社ホクノーが運営するスーパーの店内で相談や情報提供を行っている。来客数の多い年金支給日等の日中に年6回程度開設しており、無料で血压チェックもできる。買い物帰りに立ち寄りの方が多く、年間延べ約140件の相談を受けている。心身不調、将来への不安、周囲に親しい友人がおらず寂しい等の相談内容が多く、民生委員、ボランティア、保健・医療・福祉・法律の専門家が対応し、医療機関の紹介、介護保険の申請、後見手続きの説明、サロンや介護予防教室などの集いの場の紹介等も行っている。直接来場しなくとも、相談会の看板や相談の様子が多くの住民の目に留まるので、相談会に来場しない住民に対しても、身近に相談できる場所がある、という安心感を提供している。

